

全国初！行政・教育分野一体での「UDフォント」活用（茨城県行方市）

取組概要

誰にとっても読みやすく、読み間違えにくく、また学校教育にも最適な「ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)」を全庁・全小中学校で使用開始しました。
(平成31(2019)年2月～全国の自治体で初めて試行的に開始。同年4月から本格運用)

取組の効果

- ・市民からは、行政や学校の発信文書等が「見やすい」、「読みやすい」、「わかりやすい」と評価されました。
- ・市民意識調査では、市から市民への「情報伝達度」を測定する項目「十分伝わっている」が上昇しました。
- ・「伝える」から「伝わる」情報発信の展開により、職員の意識と情報発信能力が向上しました。

創意・工夫した点

- ・行政、教育現場のいろいろな場面で、シーンに合った「UDフォント」を積極的に活用し、市民の目に触れる機会を増やしました。
- ・職員・教員向けの資料提供、研修機会を設け、「UDフォント」の活用を推進しました。

他団体へのアドバイス

「UDフォント」は、日常生活で目にする機会が増えています。
持続可能なまちづくりを推進していくためには、「UDフォント」を活用することが有効です。

人口 34,451人(R2.1.1現在)

担当 政策推進室

行方市 なめがた

▲一般的な明朝体

行方市 なめがた

▲UD明朝

一般フォントとUDフォントの比較

ゴシック体

UDデジタル教科書体

両者の欠点をカバー

教科書体(手書き)との違い

- 画数が異なる
- 形状が異なる
- 運筆がわかりにくい

一般的な教科書体

子どもによって、ストレスに感じる部分

- 筆を押し付けた形状
- 先端のどがった形状
- 線の太さの強弱が大き

教育現場での活用(UDデジタル教科書体)